

NPO 法人岡崎がくどうの会

放課後児童支援員都道府県認定資格研修レポート

科目①『放課後児童健全育成事業の目的及び制度内容』

科目②『放課後児童健全育成事業の一般原則と権利擁護』

科目③『子ども家庭福祉施策と放課後児童クラブ』

科目④『子どもの発達理解』

科目⑤『児童期（6歳～12歳）の生活と発達』

科目⑥『障害のある子どもの理解』

科目⑦『特に配慮を必要とする子どもの理解』

科目⑧『放課後児童クラブに通う子どもの育成支援』

科目⑨『子どもの遊びの理解と支援』

科目⑩『障害のある子どもの育成支援』

科目⑪『保護者との連携・協力と相談支援』

科目⑫『学校・地域との連携』

科目⑬『子どもの生活面における対応』

科目⑭『安全対策・緊急時対応』

科目⑮『放課後児童支援員の仕事内容』

科目⑯『放課後児童クラブの運営管理と運営主体の法令の遵守』

【クラブ】（ あおぞらクラブ ） 【名 前】（ 花田幸奈 ）

全 16 回の講義で心にのこったことや気づいたことや学んだこと、今後の実践に活かしていきたいことなど、感想もふくめてお書きください（自由記述）。

私がとても印象に残ったお言葉は、「子どもたちにとって遊びとは、誰かに指示されて行うものではなく、自分の意思で遊びたいから遊ぶ。「何をして」「誰と」「いつまで」遊ぶのかということについても子ども自身で決定すること。そもそも「遊ばない」という選択も子ども自身によって決定するものである」というお言葉です。

日々子どもたちと関わる中で、さっきまであの子と一緒に遊んでいたのにふと指導員に甘えてくる子がいます。そんな風に子どもたちが甘えてくる瞬間というのは学童指導員にとって大変嬉しいものでもありますが、「お友達となんかあったのかな？遊ばなくていいのかな？」という心配の気持ちから「みんなと遊んでこなくていいの？」という声かけをすることがあります。ですが、今回の講義を通してその言葉がけは、子どもたちからしてみると「遊んでおいで」という風に聞こえていなかったかと心配になりました。学童では、毎日全員が元気よく「ただいま！」と帰ってくる子どもたちばかりではなく、学校から様々な気持ちを抱えて帰ってきます。学校で一生懸命頑張りすぎて疲れている子、今日はずっと仲良しの友達が学童お休みで元気がない子、本当はおうちに帰ってゆっくりしたいと思っている子など、それぞれ違うからこそ、いろいろな学童でのごし方を子どもたちが選択できるといいなと思っています。そして、元気に「ただいま！」と帰ってくる子どもたちに、「今日も 1 日学校お疲れ様」という気持ちを込めてしっかりと指導員が「おかえり」とあたたかく迎え入れていくことは子どもたちに安心して学童で過ごしてもらえらるための、とても大切な言葉がけになっているのではないかと感じました。

そして、子どもたちが楽しそうに遊んでいるときには指導員はとてもうれしいものです。そんな子どもたちの「こんな遊びがしたい！これやりたい！」と言ってくれるものが相談してくるだけあって少々危険であったり、「やらせてあげたいけど、どうしようかな」と悩むものも多いです。ですが、すぐに否定するのではなくて、まずはやれる方法を、“子どもたちと一緒に一生懸命考えてみる“というのが日々大切だと思っています。そんな子どもたちの気持ちに少しでも多く寄りそいながら、これからも放課後の意味を考え続けていく必要があるなと思いました。